様式３

令和４年度　香南市立保育所評価報告書　　香南市立野市保育所

経営理念	〈経営目標〉一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 〈保育目標〉げんき　のびのび　のいちっこ 〈子ども像〉・自分のことは自分でしようとする子ども　・自分で考える子ども　・人の話を聞き、自分の考えや思ったことを話せる子ども　・思いやりの心を持つ子ども 〈保育所像〉・一人一人の子どもを大切にする保育所　・友だちとの関わりのなかで社会性を身につける保育所　・保護者や地域から信頼される保育所　・幼稚園・小学校との連携を大切にする保育所 〈保育士像〉・子どもとの信頼関係を大切にする保育士　・意欲を育む環境を考える保育士　・チームワークを大切にする保育士　・保護者とより良い協力関係を築く保育士　・専門性の向上に努める保育士

今年度の重点目標		評価項目	自己評価		保育所関係者評価			改善策等
			達成状況	評価	考察	評価		
保育・教育活動の充実	○保育指針に沿って、乳幼児の発達に即した保育活動を展開し、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。	子どもが意欲的に遊べる園庭環境づくりを行う。	週末に学年の代表が話し合い、次週の園庭の使い方や遊びについて確認したり、話し合いが持てない時には園庭の図に書き込みをするなどして連携を取るようにした。また、遊びや遊具の提示の仕方なども育ちや年齢に応じて使い分けをしたり、子ども同士の関わりが持てるような工夫もしてきた。	B	週末に話し合いを持ったり、できない時でも書き込みで共通理解を図るなど取り組みが重ねられている。園庭の遊びや具体的な環境作りについては次年度に期待する。	B	時間の確保を改善することは難しいが、今年度取り組んだ書き込みでの連携や学年代表の話し合い等は今後も行っていく。学年間・クラス間での共通理解や話し合いを持つことが園全体としての連携にも繋がると思うので、今後も継続して取り組んでいく。また、園庭の環境作りという研究目標は２年目となるので、より具体的な取り組みになるように計画していく。
		基本的生活習慣が身についていくための指導・援助を行う。	成果指標と取組指標の達成状況結果の差が大きく指標の設定が実態に合っていなかった。いろいろな声かけや取り組みもしているが、もう少し取り組みの工夫もできるのではないかと思った。保護者アンケートの結果から読み取ると、保護者の生活リズムを大切にしているという意識の高さも一つの要因だと考える。	B	確かに取組指標と成果指標の差は大きい。また、保護者アンケートの集計から見ても早寝を意識して取り組む家庭も多い。しかし、その大切さは園としても保護者に伝えてきた結果だと思う。今後もなぜ早寝（生活リズム）が大切なのか、改善されることでどう変容するのか伝え続けることが大切。	A	生活リズム、基本的な生活習慣の獲得には家庭の協力も必要なので、引き続き保護者への啓発を行うとともに、子どもたちが自ら考えて行動できるように保育の工夫も考えていく。取組指標についても職員と話し合い、実態や課題に基づいた指標を示していく。
		子ども一人一人の姿をよみとり、幼児理解を深める。	計画・実施・評価・改善が毎週しっかりとされていた。また、担任間、学年間でも日頃からよく連携を取って保育できていた。子どもも意欲的に遊ぶ姿が増えた。	A	PDCAサイクルがしっかりとなされている。早朝から延長の職員まで共通の意識を持って取り組むことで子どもの変容が見られている。保護者アンケートの『保育者が子ども一人一人をあたたかく受けとめ、信頼関係が築かれている』が高評価なことからも読み取れる。	A	今年度の取り組みの反省から、園全体では難しかったが、学年により、早出から延長の担当まで一貫した保育や関わりをしていくことで、子どもの変容が見られたという実感が職員の手ごたえとしてあったので、今後も継続して取り組んでいけるように園全体として共有していく。計画と実践が伴っていくように取り組んでいく。
職員の資質向上や運営	○職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員が互いに協働する保育所を構築する。	教材等に関する相互啓発・研修を実施する。	年度半ば頃までは教材研究をしたり、自身でも専門書等で調べたりして保育に取り入れていれることができた。後半は行事等で忙しくなったり、研修の確保も難しくなり、事前の準備もできないこともあって、取り組みには個人差が見られた。継続する難しさを感じた。	B	時間確保の問題や個人差・経験差の難しさはあると思う。保護者アンケートから保護者の期待する育ちの方向性なども参考にしてみてはどうだろうか。研修時間の確保等計画的に取り組めるように、次年度に期待する。	B	年間計画に研修予定を組み込み全体で取り組める時間の確保をしていく。また、計画はしていても準備に時間を要したり、子どもの発達や興味とズレがあり遊びが続かない等もあったので、月案・週案等の評価・反省から子どもの実態を読み取り、それに沿った教材準備を行っていく。
		安全計画を見直し、安全対策を行う。	避難訓練の内容としては、毎月取り組みを続けることで、職員も子どもも意識して取り組むことができていた。今後は想定外のことや実際に災害が起きた時のことを想定しての見直しが必要だと感じた。また、火事・地震以外の安全管理（不審者、遊びの中で起きる事故・怪我等）についても考えていく。	A	しっかりと取り組みがなされている。不審者訓練等、今後は火災・地震以外の安全教育にも取り組んでいくことを期待する。	A	火災・地震の訓練については、子どもも職員も臨機応変な対応ができてきているので、今後は想定外の訓練や、災害後に園で過ごす場合の対応等を考えていく。また、不審者訓練や保育中の事故、怪我等の安全教育についても具体的な場面を想定して取り組んでいく。
地域に開かれた園づくり	○保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	園で大切にしていることや、子どもの育ちが保護者に伝わるような便りや掲示を積極的に発信していく。	保護者と職員の対面での連携が取りづらい現状はあるが、職員が連携を取りながら、朝から夕までの子どもの保育がつながっていくように、状況を伝えていけるように努めた。ただ、保護者に伝わるようにという点では、保護者アンケートからも見て取れるように十分にはできていない。	B	保護者全てに同じように関わることは難しいが、よく努力していると思う。お便りも分かりやすくなっているし、ドキュメントもその日のことが掲示されているので、保護者もよく立ち止まって見ている。	A	職員間で連携し、いろいろな方法で保護者に子どもの姿を伝えてきたが、来年度は園として伝えたい育ちや課題を伝えるためのスキルの習得を目指して研修や事例研等を行う。また、保護者の知りたいことに対しての対応についてアンケート等から探り、返していけるように取り組む。
		中学校区の連携・交流活動に関心を持ち、連携の必要性の理解に努める。	数年止まっていた交流活動が動き出したことは前進だと思うが、どうしても５歳児が中心になることが多く、全員が意識して取り組むにはもう少し工夫が必要になってくると感じた。	B	できる交流や連携はできていたと思う。保幼小中の連携も次年度からは実践し行うことが出来ると感じる。そのためにも、計画をしっかりと行うと良い。	B	交流や連携が年長児だけにならないように、園内での共有の仕方を工夫していく。また、保幼小中の職員間の交流も園内研や職場体験等を活用できるように、組織として取り組めるように計画していく。

【評価基準】Ａ：十分満足（９０％以上）Ｂ：おおむね満足（７０～９０％）　Ｃ：もう少し努力すべき（５０～７０％）　Ｄ：大いに努力が必要（５０％以下）